

「史跡旧新橋停車場跡及び高輪築堤跡」における高輪築堤跡保存活用計画等策定・検討委員会(第3回)

議事要旨

I 開催概要

日 時： 2022(令和4)年6月1日(水曜日)10時00分～12時00分
場 所： JR 東日本 会議室
出席者： 以下の通り

表 出・欠席者一覧(※印はオンライン出席)

委 員	老川 慶喜 氏 (立教大学名誉教授) 小野田 滋 氏 (公益財団法人 鉄道総合技術研究所 情報管理部 担当部長) 高妻 洋成 氏 (独立行政法人国立文化財機構 奈良文化財研究所 副所長) 古関 潤一 氏 (東京大学 社会基盤学専攻 教授) 鈴木 淳 氏 (東京大学大学院 人文社会系研究科・文学部 教授) 谷川 章雄 氏 (早稲田大学 人間科学学術院 教授) 中井 検裕 氏 (東京工業大学 環境・社会理工学院 教授) 福井 恒明 氏 (法政大学 デザイン工学部 教授) ※矢ヶ崎 紀子氏 (東京女子大学 現代教養学部 教授) 【欠】伊藤 香織 氏 (東京理科大学 理工学部建築学科 教授)
オブザーバー	文化庁文化財第二課 港区教育委員会事務局 教育推進部 ※港区街づくり支援部 品川駅北周辺地区市街地再開発準備組合 公益財団法人東日本鉄道文化財団 鉄道博物館 独立行政法人都市再生機構 東日本都市再生本部 都心業務部 東日本旅客鉄道株式会社 構造技術センター 東日本旅客鉄道株式会社 総合企画本部 品川・大規模開発部 東日本旅客鉄道株式会社 事業創造本部 【欠】東京都 教育庁 地域教育支援部
関係者	東京都 都市整備局 市街地整備部 再開発課
事務局	東日本旅客鉄道株式会社 総合企画本部 品川・大規模開発部

II 次第

- (1)開会
- (2)前回議事録確認
- (3)前回指摘事項について
 - ・前回資料修正と遺構調査の状況について
 - ・区画道路2号移設に伴う泉岳寺駅地区再開発事業への影響について
 - ・品川駅北周辺地区 交通量推計について
 - ・区画道路2号の築堤への影響検討について
 - ・高輪築堤を露出保存する場合の技術的検討(保存対策・構造安定性検討)

- ・目次構成案及び策定スケジュール
- (4)保存活用計画策定について
 - ・計画対象範囲について
 - ・「第2章史跡の概要」「第3章史跡の変遷と現状」「第4章本質的価値」について
 - ・「第5章 課題」及び「第6章 大綱・基本方針」について
 - ・「第7章 保存管理」「第8章 公開活用」「第9章 整備」方向性及び素案について
- (5)その他

III 議事要旨

- (1) 開会
 - (2) 前回議事録確認
 - (3) 前回資料修正と遺構調査の状況について
- ・区画道路2号移設に伴う泉岳寺駅地区再開発事業への影響について
 - 歩道状空地が2mあるのに道路部分にも歩道があり、2重に歩道空間が確保されている。道路と史跡との重複を踏まえると、都の姿勢としてあまりに史跡保護への協力が無いことを明確に示すことであり、大変遺憾に思う。(委員)
 - 再開発の進捗や駅整備への影響は理解するが、重複利用の部分を1mでも史跡に配慮するような検討ができないのか？大きな設計変更を伴うという説明だが、都市計画決定の変更以外にどのような影響が生じるのか？(委員)
 - ← 壁面線、道路斜線の移動に対しハードを移動させることが難しいということになる。都市計画変更の手続き自体は避けられず、スケジュールの面で影響が大きい。(関係者)
 - 道路区域は変えずに断面構成を変えることは可能か？(委員)
 - ← 道路管理者や交通管理者、隣接地権者である東京都及び JR 東日本と協議・調整した上で問題がなければあり得る考え方である。(事業者)
 - 車道より歩道の荷重は小さいので、車道を再開発側に寄せて東側の歩道を広げ、再開発側は歩道状空地をみなし歩道として整備するという考え方はありそうである。(委員)
 - 交通量のデータはいつのものを使っているのか。交差点の負荷が現状に即しているのかどうか。感覚的には交通量は減っているのでいろいろな可能性があると考えている。区画道路2号の影響が非常に大きいとすれば、断面構成を大きく変えるということは改善策としてありうる。例えば、区画道路2号を一方通行にするなどが考えられる。そのあたりは検討ができないか？(委員)
 - ・区画道路2号に関する交通量推計について
 - 資料説明した2016年4月の土地区画整理事業の都決時の交通量推計に対し、JR 東日本が実施した2019年4月の建物に係る都決時の数値は、交差点需要率、車線別混雑度ともに減少している。(事業者)
 - 一方通行の可能性について、道路管理者、交通管理者、隣接する事業者と協議し、どういった工夫ができるか検討を継続したい。(事業者)
 - とてもいい傾向である。道路構造や幅員構成の変更は再開発事業の変更よりも関係者が少なく可能性が大きい。(委員)

- 区画道路 2 号の幅員構成を変えることで史跡の周りをきちんと歩行者が見られるようになる効果も重要である。幅員を絞ることにより道路自体の位置づけも変わり、歩行者動線として魅力が高まるという点が史跡の保護とともに、大きな意義がある。(委員)
- 交通処理が若干不便になるのは仕方がなく、落としどころとして可能性が高い。(委員)
- 道路管理者や交通管理者との協議次第だが、区画道路 2 号の日交通量は多くなく、一方通行化を検討する価値は高いので、検討を進めてもらう方向でまとめたい。(委員)
⇒ 了解。(委員一同)

・区画道路2号の築堤への影響検討について

- 路床上部の安定改良や補強材を必ず採用し、遺構への影響が小さくなる工法に追加検討してもらいたい。(委員)
- 補強材は荷重を分散させるジオグリッドなど強度の強い材を採用し、過積載のトレーラーが停まっても築堤に負荷がかからない工夫をお願いする。(委員)
- 雨水が築堤に浸透するかどうか、乾燥状況など補強材の素材の検討も進めてもらいたい。(委員)
← 乾湿繰り返し最大の問題と認識するが、道路舗装により堤体内を一定の環境に保つ効果があると考えている。設計内容について改めて相談する。(事業者)
- 車道位置がずれればずれるほど負荷は小さくなるため、断面構成の議論と合わせての検討を依頼する。(委員)

・高輪築堤を露出保存する場合の技術的検討

- 概ね保存に関する対策はカバーされている。(委員)
- ジオテキスタイルを用いる場合、シートと道路の間に空間があると乾燥が起きるが、密着していれば乾燥はそれほど進行しない。(委員)
- 堤体内の水が抜けるとすれば海側の石垣の隙間から出てくる。それほど透水係数は高くないので乾燥は進みにくいと思われるが、センサーによる含水率のモニタリングがよい。(委員)
- 橋台の奥行 0.9m の妥当性について論拠としては進展がない。このままでは奥行 0.6m である可能性を否定できないので、逆解析での検証が考えられる。例えば 0.6m だと既に壊れているというような解析結果が得られれば、0.9m が妥当と推論できる確度が高まる。(委員)
← 0.6m の逆解析を検討する。(事務局)
- レベル 2 地震動に対しては構造的な対応だけでは所定の安全性を確保することが不可能と考えられるので、立入禁止の対応などが望ましい。(委員)
- 石積みの小口が奥行に対してアンカーのように機能しているが、安全を見ると 0.9m より 0.6m で検証することが望ましい。(委員)
- 石を雨水にさらすことについて、花崗岩も使われているので雑草対策に加えカビの発生等の配慮が必要である。除草剤の散布など、何か方策はあるか？(委員)
→ 除草剤が石材を崩壊させる可能性がある。環境負荷という観点も考慮すべき。モニタリングを行い、必要な追加対策をとる流れとなる。(委員)
← 雑草は構造物の強度への影響がないのか？(委員)
→ 雑草はそれほど強度には影響を与えない。見た目の良し悪しである。(委員)
- ストラットは、補強しているように見せない方法を検討してもらいたい。(委員)
- 委員の先生方の協力を得ながら、引き続き検討を進めてもらいたい。デザインと構造については専門の委員にもアドバイスを得ること。(委員)

・目次構成案及び策定スケジュール

(4) 保存活用計画策定について

- 計画対象範囲は史跡指定地を含む品川開発プロジェクト範囲と示されているが、計画対象との関係が明確ではない。計画対象は必要ないのでは？(委員)
 - 計画対象範囲に史跡指定地と史跡指定地周辺が併記され、内容が重複している。再検討してもらいたい。(委員)
 - ← 再度整理する。(事務局)
- 範囲図はスケールの大きな図で詳細がわかるように表現してもらいたい。(委員)
- 史跡の構成要素の区分で指定地と周辺の区分がなされているが、周辺における現地土中に残る高輪築堤の遺構も、本質的価値を構成する要素であると考え。指定地と指定地外を分けることで無理が生じている。うまく表現しないと、整理できない。(委員)
 - ← 記載方を含め、しっかりした仕分け、わかりにくい表現を整理する。(事務局)
- 露出保存と判断しても具体的な整備方法次第で、やはりやめよう、とする判断もありうる。ある程度でも整備の姿を出してもらい、露出保存の判断をしたい。(委員)
- 公開^{公開}＝露出ではない。露出させない公開もありうる。公開することは異論がないように思えるが、どういう形で露出させるかの議論が足りない。(委員)
- 当時の先進的な土木技術という部分も整理しなければならない。委員の知恵を借りながら、内容を深めていきたい。(委員)

要旨以上